本格将棋

取扱説明書

マイクロキャビン

〒510四日市市安島2－9－12
TEL (0593) 51-6482

【棋太平】取扱説明書

本格将棋　【棋太平】の特徴

◆プログラムはすべてアセンブリ言語で書かれ、高速で動作します。
◆まったく新しい思考ルーチンの開発により、コンピュータの思考を強めています。
◆実際の将棋ルールは忠実にシュミレートしています。
◆美しいグラフィックと見やすい漢字表示で、ハードウェアの能力を100％引き出しています。

ロード方法

コンピューターの電源がＯＦＦになっているのを確認してから、ＲＯＭカートリッジをセットします。それからパソコン本体の電源を投入してください。しばらくするとＲＯＭからプログラムを読み込んでゲームが始まります。
ゲームを終わる時は電源を切ってからＲＯＭカートリッジを抜いて下さい。

対応機器

この棋太平はＭＳＸ２専用でＶＲＡＭは128Ｋ必要です。棋譜データを記録する場合はデータレコーダーが必要です。

重　要

現在のマイコン将棋は、まだ人間に対して弱いですが、きっといつの日か人間も負ける物が出来ると信じて、当社も『日本初、対局将棋・王将』→『飛車』→『棋太平』とバージョンアップしてまいりました。今後も開発を続けて行きますので、応援してください。

バージョン№の確認方法

１．棋太平を起動してください。
２．メインメニューで画面右上にグラフィックで『棋太平』とタイトルが出ていると思います。
３．【手】カーソルを動かして、『きたへい』と赤く書いてある所へ持って行きます。
４．そこで、『スペース』キーを押してください。
５．バージョン№が画面に表示されます。

使用キー

通常メニューの入力待ち状態の場合、右側に５つの『アイコン』が表示されています。
この『アイコン』は、上から順番にファンクションキーのＦ１－Ｆ５に対応しています。
カーソルキーで【手】カーソルを動かして、スペースキーを押す事により指先で直接指示することも出来ます。

画面の調整

この棋太平ではテレビの画面をふるに使っています。その為モニターテレビによっては端が見づらくなる場合があります。その様な時はメニュー画面が出ている時にＣＴＲＬキーを押しながら左右のカーソルキー（←　→）を動かして調整して下さい。

メニューの説明

通常、画面の右端には『アイコン』が表示されています。メインメニューの時は、その『アイコン』の上部にグラフィックで『棋太平』と書かれています。その他サブメニューの場合は『アイコン』の上部にそれぞれの仕事名が書かれます。以下の説明では全てメインメニューからの指示は『 』で、サブメニューからの指示は【 】で囲まれているものとします。また、別表の『アイコン』早見表をご覧になりながら説明書をお読みください。

駒の動かし方

実際に対局している雰囲気を出すために、今回より【手】カーソルが出るようにしました。動かしたい駒に指先を合わせ、'スペース' キーを押します。【手】カーソルにその駒を持ったはずです。次に動かす所へ駒を運び、もう一度 'スペース' を押します。そこが将棋のルール上、正しい場所なら駒が置かれたはずです。
駒が、動いたことによって成れる場合は、駒を置く前に【成り（Ｆ４）】又は'・'キー（小数点）で裏返しにしてから、駒を置いてください。（駒を直接『アイコン』の【成り】の所へ持っていって 'スペース' キーを押しても結構です。）
持ち駒を使う時も、持ち駒域へ【手】カーソルを持っていって取り、盤上へ置くだけでまったく同様に行えます。

盤に駒を並べる
『初期化：Ｆ１』

通常は対局を行う前に実行します。盤に駒を並べる機能です。『初期化：Ｆ１』を選択すると確認がありますのでそれに応えます。なお棋譜データがある場合、棋譜データは消去されますので注意が必要です。

新聞・雑誌等の盤を設定する
『盤設定：Ｆ２』

【手】カーソルを使い自由に駒を動かし盤を設定して下さい。右上の緑の所へ駒を移動するとその駒は使用されません。駒を【手】カーソルで持っている状態で“．”（小数点）を押す毎に駒の状態が「成る→向きが変わる→成る→向きが変わる」の様に変わります。
詰め将棋の状態を設定する場合は王を必ず２個設定して下さい。

【初期化（Ｆ１）】
　　これは、機能的にはメインメニューにある初期化と全く同様のものです。
【クリア（Ｆ２）】
　　棋譜の記録をメモリーより消去します。駒は全て緑の未使用領域に置かれます。
　　詰め将棋の状態を設定する時に便利です。
【盤反転（Ｆ３）】
　　盤に並べられている駒及び、持ち駒を反転します。利用方法は色々ありますが例えば友達と対局していて自分が不利になったらスキを見てこの命令を実行し相手をびっくりさせるとか………？

人間　対　人間の対局方法
棋譜の再現・記録・人間　対　人間の対局
『棋譜：Ｆ３』

先ず、盤に駒を並べなくてはいけませんので、『初期化：Ｆ１』を選択します。次に、『棋譜：Ｆ３』を選択して下さい。次に、【記録（Ｆ１）】を選択して下さい。どちらが先手をするのかの問い合わせがありますので【上側（Ｆ１）】又は【下側（Ｆ２）】を選んでください。

【記録（Ｆ１）】
　　人対人の対局、名人戦等の記録ができます。画面上側を受け持つ人が先手の場合は【上側（Ｆ１）】、その逆は【下側（Ｆ２）】『アイコン』により決め通常の将棋のように対戦します。コンピュータはただ単に将棋盤として働きます。但し記録は残りますので、棋譜ロード・セーブは可能ですし、続きをコンピュータと対局することも可能です。
＊コンピュータと続きをする場合。
　　【メニュー（Ｆ５）】で一旦、対局を中止します。次に『対局：Ｆ５』を選びます。どちらの番かは自動判断されます。
【再現（Ｆ２）】
　　今までの対局を再現します。ＶＴＲのようなもので早送り、早戻し、コマ送り、コマ戻しができます。早送り、早戻し中は'スペース キーを押せばいつでもメニュー待ちになります。
＊再現途中からコンピュータと対局する場合。
　　【メニューＦ５】で一旦、打ち切り次に『対局：Ｆ５』を選びます。どちらの番かは自動判断されます。
【消去（Ｆ３）】
　　棋譜の記録をメモリーより消去します。

棋譜のロード・セーブ
『ファイル：Ｆ４』

【ロード（Ｆ１）】
　　カセットテープに登録されている棋譜データー読み込みます。
　　【ロード】をカーソルで選択してスペースキーを押して下さい。画面中央に
　　ＦＩＬＥＮＡＭＥ　ＫＩＴＡＨＥＩＤ
　　と表示されます。テープにセーブした時の名前をキーボードより打ち込んで下さい。その後、ＲＥＴＵＲＮキーを押して下さい。データレコーダーの再生ボタンを押して下さい。テープにセーブした時の名前を忘れた時はＣＬＳキー（ＳＨＩＦＴキーを押しながらＨＯＭＥキーを押す）を押してＫＩＴＡＨＥＩＤの名前を消し、ＲＥＴＵＲＮキーを押して下さい。最初に見つけた棋太平の棋譜データを読み込みます。キャンセルする場合はＦ・５キー【メニュー】を押して下さい。
【セーブ（Ｆ２）】
　　カセットテープに現在の棋譜データー記録します。
　　【セーブ】をカーソルで選択してスペースキーを押して下さい。画面中央に
　　ＦＩＬＥＮＡＭＥ　ＫＩＴＡＨＥＩＤ
　　と表示されます。データレコーダーに新しいテープをセットして記録の状態にして下さい。その後テープにセーブする時の名前をキーボードより打ち込んで下さい。

ＫＩＴＡＨＥＩＤと名前が最初に登録してありますが、自分の好きな名前に変えてＲＥＴＵＲＮキーを押して下さい。そのままでよければＲＥＴＵＲＮキーのみを押して下さい。カセットテープに棋譜が記録されます。カセットテープのラベルには記録した時の名前を書いて於て下さい。
　キャンセルする場合はＦ・５キー【メニュー】を押して下さい。

【メニュー（Ｆ５）】
　メニューに戻ります。

人間　対　コンピュータの対局方法
『対局：Ｆ５』

先ず、盤に駒を並べなくてはいけませんので、『初期化：Ｆ１』を選択します。
次に、『対局：Ｆ５』を選んで下さい。どちらが先手をするのかの問い合わせがありますので人間先手の場合は【あなた：Ｆ２】を、コンピュータ先手の場合は【棋太平：Ｆ１】を選んでください。

一般注意事項

・データレコーダーはなるべくコンピューター専用のを御使用下さい。記録した棋譜データがうまくロード出来ない時はデータレコーダーのボリュームを変えて再度試して下さい。カセットテープも最初の巻き初めから記録出来るコンピューター専用を使う事を勧めます。
・『成り』を忘れて駒を移動してしまった場合は、【棋太平】が次の一手を指すまで待ち自分の番になってから、『待った』を指示してください。それから改めて打ち直します。
注意：思考時間は戻されませんので、必要以上に『待った』を使用すると思考時間ばかり長い将棋になってしまいます。
・『再現』を実行中にそこから差し直したい場合は、そのまま『メニュー』を選び、次に『対局』に行きます。この場合先手、後手は自動的に判断されますので『アイコン』より選択する処理は省略されます。
・棋譜データが全く無い場合は、『棋譜』の【再現】はできません。
・反則（２歩・打ち歩詰め等）は、本来は負けになりますが、『棋太平』では注意を促し打ち直しを要求しますので従ってください。

ファンクションキー・アイコン早見表